

《岐阜県知事賞》

教育の光と私の願い

各務原市立蘇原中学校 3年
イクバル ラリナ

私の名前はイクバルラリナです。パキスタンの北にある、スワートという美しい谷から2年半前に来ました。はじめに、私の父が言ってくれた言葉を紹介させてください。

「たとえ声がふるえても、真実を話しなさい。あなたの声は、だれかの希望になるかもしれない。」

この言葉があるから、今日、わたしはここに立っています。小さな声ですが、大きな夢をもっています。

スワートはとてもきれいなところですよ。春になると、谷には色とりどりの花が咲きます。川の水は青くて冷たく、山には白い雪がのっています。人々はやさしく、笑顔であいさつをしてくれます。でも、わたしの子ども時代は、ずっと平和ではありませんでした。小さいころ、音楽が禁止され、テレビも見えてはいけなかったと言われました。そして、いちばん悲しかったのは、「女の子は学校に行ってはいけなかった」と言われたことです。わたしはとてもこわかったです。でも、「わたしも勉強がしたい」「わたしにも夢がある」そう思っていました。

マララ・ユスフザイさんもスワート出身の女の子でした。彼女は「教育は私の権利」と世界に向けて声を上げました。その声は、大きな力になりました。私もこの言葉に大きな勇気をもらいました。私も教育の力を信じています。教育は、光です。教育があれば、自分の力を知ることができます。夢を見ることができます。そして、自分を大切にできます。わたしの家族はわたしを応援してくれました。

「勉強すれば、なんにでもなれるよ」と父と母は言ってくれました。

日本に来た時、新しい世界が待っていました。言葉・文化・食べ物もすべてが違っていました。同じことが2つありました。

それは、尊敬することの大切さと教育の力です。日本では、いつも私が夢を見ていたものが見られました。それは、女の子と男の子が、一緒に学ぶ学校です。みんなに教科書があり、きれいな教室があります。やさしい先生たちがいて、自分が成長できる安全な場所です。私は、クラスのみんなが考えたり、疑問をもったり、創造したりすることを教えられているのを見ました。そして、何よりも自由を見ました。学校は安心で、心強い場所です。日本は、すべての子供たちに平等で自由になれる教育を与えてくれました。そして、どんなこともできると私に教えてくれました。

私は将来やりたいことが見つかりました。それは、英語の先生になることです。英語が好きだからというだけではなく、他の人が世界中に向けて話せるよう手伝いたいからです。英語は教育やたくさんのチャンス、そして世界中の人と友達になるきっかけを開くドアです。

いつかパキスタンに帰り、すべての女の子が安全で自由になれる学校をつくりたいと思います。私は、パキスタンの女の子に「あなたは大切な人です。あなたの声が大切です。あなたの夢はかないます。」と言いたいんです。そして、私の村の親たちに言いたい。「女の子たちに教育を受けさせましょう。女の子が教育を受けることは、家族全員の希望だからです。」と。

私はまだ14歳です。しかし、私の夢は大きく、希望で満ちています。世界を変えるのに、若すぎることはないと思います。若いからまだまだできることがあります。

私は自分のために話しているわけではありません。今も学校に行けるように待っているスワートのすべての女の子たちのために話しています。教科書を隠さなければならないすべての子供たちのために話しています。

そして、私はここで、どこに生まれたかに関係なく、すべての子どもが学ぶ権利をもつ世界を信じている、すべての人々に語りかけています。

私の人生に光を与えてくれた日本に感謝します。そして、スワート、私に力を与えてくれてありがとう。

私の両親、特に私の声を信じてくれた父に感謝します。